

ぶどう新品種「翠峰」の育成							
<p>〔要約〕 極大粒、黄緑色で外観が優れ、しかも食味良好な、比較的早熟性の施設栽培用の四倍体生食用ぶどう「翠峰」を育成した。</p>							
園芸研究所・果樹部・果樹品種研究室						連絡先	092-922-4111
部会名	園 芸	専門	育種	対象	果樹類	分類	普及

〔背景・ねらい〕

温暖多雨地帯における施設栽培用ぶどう品種として、「巨峰」より高品質で、大粒の品種の作出が求められている。

このような品種を作出するため、極大粒の紫黒色の「ピオーネ」に大粒の黄白色の欧州種である「センテニアル」を交配し、選抜、育成する。

〔成果の内容・特徴〕

- ①樹勢は強く、新梢の伸びは旺盛で、樹冠の広がり巨峰並である。枝梢の登熟は容易である。テレキ5BB台で中位～著しい台負けがみられる（一部データ略）。
- ②果房は円筒形である。通常は果房を整形し、350～400gの円筒形果房とする。四倍体品種であるため花振るい性が強く、着粒程度は粗～中である。果房の外観は優れている。
- ③果粒の形は短楕円から長楕円、平均13.7gと極大粒で、巨峰よりやや大きい。果皮色は黄緑で、剥皮性は中～やや難である。肉質は崩壊と塊状の中間、香気は特になく、果汁の糖度は平均16.5%で巨峰並、酸度は0.67で中位で、食味は優れている。
- ④果皮は薄い方であるが、裂果は少ない。果実の日持ちは中位である（一部データ略）。
- ⑤熟期は育成地で8月下旬～9月上旬であり、巨峰とほぼ同時期である。
- ⑥病害抵抗性はうどんこ病にやや弱いほかは、他の病害に対して欧州系ぶどうの血が濃厚であるわりには比較的強い。なお、縮果症等の生理障害の発生は認められない（一部データ略）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①「巨峰」とほぼ同時期に熟する早熟・極大粒で緑色の施設栽培ぶどう品種として普及することが見込まれる。
- ②本系統は欧州系ぶどうの血が濃厚で米国系ぶどうより耐病性に劣るため、施設下での雨を避けた栽培が要求される。施設下ではうどんこ病が発生しやすいので、適切な防除を行う。
- ③本系統は花振るい性が強く、果房に無核果の混入が多い。高品質の有核果を栽培するには、長梢剪定とし、剪定は軽く行い、整房を徹底する。

[具体的データ]

表1 育成の経過

交配母本	ピオーネ
交配父本	センテニアル
交配年次	昭和50年
選抜年次	昭和60年
系統適応性検定試験	昭和63年～平成5年
農林登録	平成6年

表2 翠峰と対照品種との果実特性の比較

品種	翠峰	ピオーネ	センテニアル	巨峰
樹勢	強	強	強	強
果房重(g)	337	414	285	364
花振るい性	多	多	多	多
着粒密度	やや粗	粗	粗	中
果粒の形	短楕円 ～長楕円	倒卵	円筒	倒卵
果粒重(g)	13.7	13.5	9.5	12.9
果皮色	黄緑	紫黒	黄白	紫黒
剥皮性	中	中～難	難	中
肉質	中間	中間	崩壊性	中間
香気	なし	フォクシー	なし	フォクシー
糖度(%)	16.5	17.6	18.2	16.1
酸度(%)	0.67	0.43	0.94	0.45
裂果性	なし～少	少	少	少
収穫期	8月下旬 ～9月上旬	8月下旬 ～9月上旬	9月中旬	8月下旬 ～9月上旬

[その他]

研究課題名：施設ぶどう育種試験

予算区分：国庫（指定試験）

研究期間：平成5年度（昭和49～平成5年）

研究担当者：松本亮司、能塚一徳、井樋昭宏

発表論文等：平成2年度、3年度、4年度園芸研究所果樹部果樹品種研究室試験成績書